

Mary C. Brinton

ハーバード大学ライシャワー日本研究所名誉教授

女性の就業と育児の 両立は可能か？

Married Women's Employment and the Birth Rate in Postindustrial Countries:
Contradictory or Complementary?

名古屋大学レクチャー

2024.12.22(日) 13:30-16:30

[名古屋大学 豊田講堂] ※日英同時通訳

先進国における既婚女性の就業率と出生率の関係は、1980年以降変化し、就業率が高いほど出生率も高い傾向となりました。一方、日本はこの傾向に当てはまりません。日本女性の就業と育児をより両立させるために、諸外国の知見をいかに活用できるかが今後の重要な課題となります。



詳細・参加申込みは
WEBサイトを
ご確認ください

名古屋大学レクチャー

2024.12.22(日) 13:30-16:30

[名古屋大学 豊田講堂]

※日英同時通訳

ポスト工業社会における女性の就業と出生率 結婚後の就業と育児の両立は可能か？

Married Women's Employment and the Birth Rate in Postindustrial Countries: Contradictory or Complementary?

既婚女性の就業率増加、そして、出生率低下。過去数十年間、先進国の変化を人口統計学から見たとき、この2つの現象は最も顕著な変化に数えられます。さて、両現象にはどのような関連があるのでしょうか？1980年時点では、既婚女性の就業率が高いほど出生率は低い傾向にありました。しかしその後、この関係性が変化し、就業率が高いほど出生率も高い傾向となりました。この変化を主導したのは、先進国の中でも共働き家庭を支える社会規範や制度があり、女性が働いていても比較的高い出生率を維持できた国々でした。一方、日本はこの傾向に当てはまりません。日本女性の就業と育児をより両立させるために、諸外国の知見をいかに活用できるかが今後の重要な課題となります。

Prof. Mary C. Brinton

ハーバード大学エドウィン・O・ライシャワー日本研究所 社会学教授

ライシャワー日本研究所名誉教授。シカゴ大学で12年間、コーネル大学で4年間教員を務めた後、2003年にライシャワー日本研究所社会学教授に就任。2018～2023年には、ライシャワー日本研究所所長を務める。主な研究・教授テーマにジェンダーの不平等、労働市場と雇用、社会人口学、現代日本社会学などがある。質的研究、量的研究を統合し、特に労働市場における制度改革が個人の行動へ及ぼす影響を考察する。プロジェクトには一次データを用い、日本、韓国で社会調査、インタビュー、観察的研究を行う。スタンフォード大学で社会言語学を学び学士を取得後、ワシントン大学にて修士号(日本学、社会学)、博士号(社会学)を取得。長年にわたり日米間の学術交流及び相互理解の促進に寄与したことが評価され、2022年に旭日中綬章を受章。著書に、『縛られる日本人-人口減少をもたらす「規範」を打ち破れるか』(中公新書 2022年)がある。

